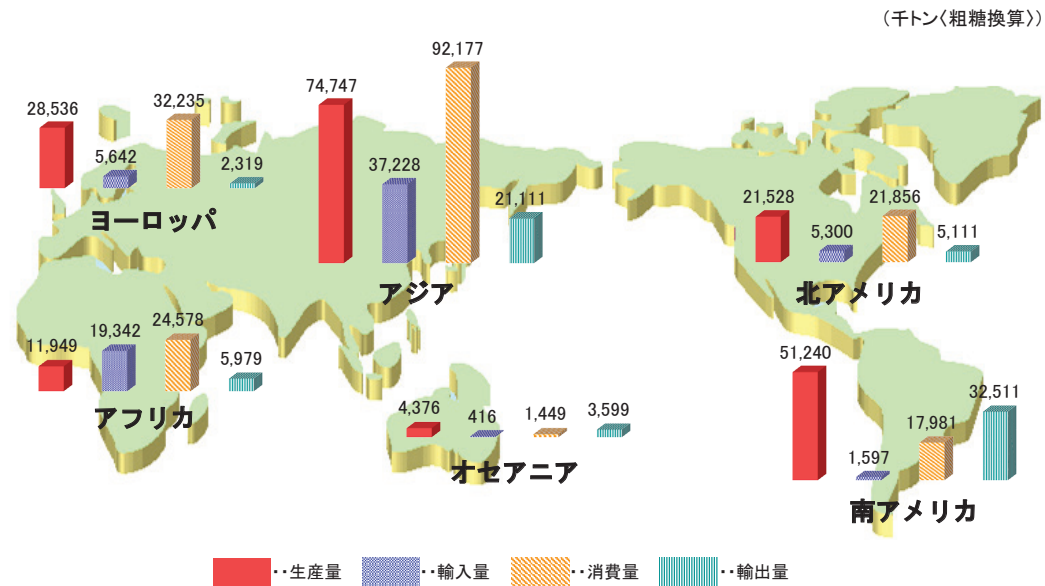


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之、水野 崇

1. 世界の砂糖需給（2023年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2023」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

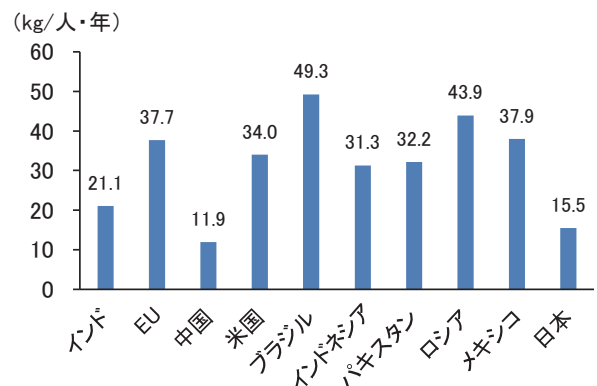
LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2023年3月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2022/23砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、前回予想より275万トン下方修正されたものの、1億9238万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比3.2%増）とやや増加すると見込まれる（表1）。主産地であるブラジルやタイの生産量増加の影響により前年度を上回るものの、生産量第2位のインドをはじめ、中国やEU、パキスタンなどでは前年度を下回る見通しである。

また砂糖消費量は、主要消費国であるインドを筆頭に、中国、インドネシアなどで増加が見込まれるものの、ブラジルやEU、米国では減少が見込まれ、全体としては1億9028万トン（同1.3%増）とわ

ずかに増加すると見込まれる。

期末在庫率は、前年度同の39.8%と見込まれる。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

（参考）一人当たり砂糖消費量（2022/23年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2023」
 注1：年度は各国の砂糖年度。
 注2：数値は予測値。
 注3：EUには、英国を含む。
 注4：図2の消費量上位9カ国および日本を表示。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	66,162	180,872	68,130	81,041	44.8
2018/19	81,041	186,654	61,286	182,967	61,421	84,592	46.2
2019/20	84,592	181,553	69,368	182,214	71,612	81,688	44.8
2020/21	81,688	181,818	66,765	184,713	68,028	77,530	42.0
2021/22	77,530	186,459	69,171	187,844	70,552	74,764	39.8
2022/23 (2023年3月予測)	74,764	192,376	69,524	190,278	70,630	75,756	39.8

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

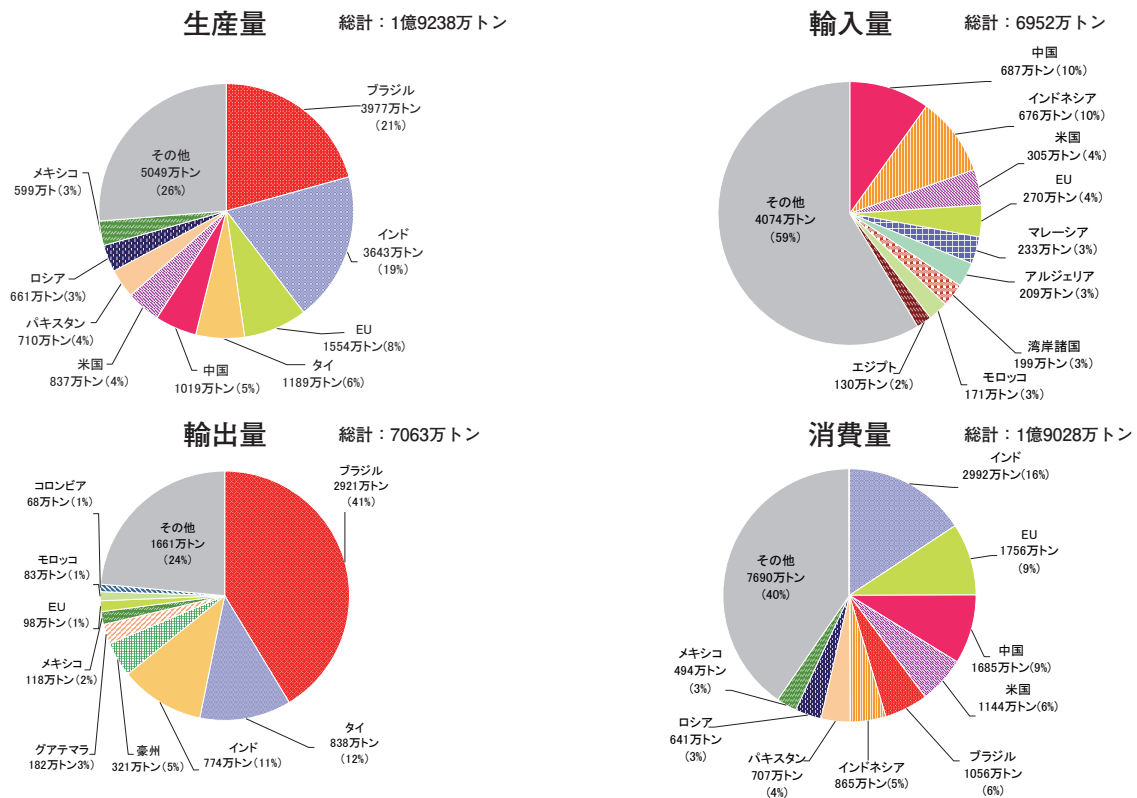
注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2023年3月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2022/23年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2023」

注1：年度は、各国の砂糖年度。

注2：各数量においては、その主要国とその他を表示。

注3：「その他」は、総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

ブラジルは、サトウキビの主産地である中南部で降雨の恩恵を受け、今後の豊作が期待されることから、3977万トン（前年比5.7%増）とやや増加することが見込まれる（図2）。

インドは、サトウキビ生産量の減少やサトウキビのエタノール仕向けの増加などから、3643万トン（同5.5%減）とやや減少すると見込まれる。

また、主にてん菜糖を生産するEUでは、夏季の記録的な熱波や干ばつがてん菜の生育に影響したことや、欧州司法裁判所がネオニコチノイド系農薬の緊急使用を否認する判決を下したことなどにより、1554万トン（同9.7%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

【輸入量】

中国では、これまで国内生産の不足分を上回る量が輸入されてきたが、輸入需要が減退しており、687万トン（同3.7%減）とやや減少する見込みではあるものの、引き続き輸入量第1位となることが予想される。また、ゼロコロナ政策の緩和により消費が増加する可能性があり、消費の回復が予想以上であれば、輸入量は増加する可能性がある。

インドネシアは、砂糖生産量が前年度をかなりの程度下回ると見込まれる中で、主に家庭での砂糖消費の増加に伴い676万トン（同15.9%増）とかなり大きく増加し、中国に次いで第2位になると見込まれる。

【消費量】

第1位のインドは、人口の増加に伴い、2992万トン（前年度比1.8%増）とわずかに増加し、世界の砂糖消費量の16%を占めると見込まれる。

続くEUは、1756万トン（同0.9%減）とわずかに減少が見込まれ、長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国は、1685万トン（同2.0%増）とわずかに増加するものの、EUの水準を下回ると見込まれる。

【輸出量】

第1位のブラジルは、インドや豪州などの主要輸出国が輸出量を大きく減らす中で、2921万トン（同7.8%増）とかなりの程度増加し、世界の砂糖輸出の4割を占めると見込まれる。

タイは、生産量の下方修正を受け、輸出量が838万トン（同3.8%増）と下方修正されたものの、インドの輸出量が減少見通しであることから順位を上げ、世界第2位に返り咲くとみられる。

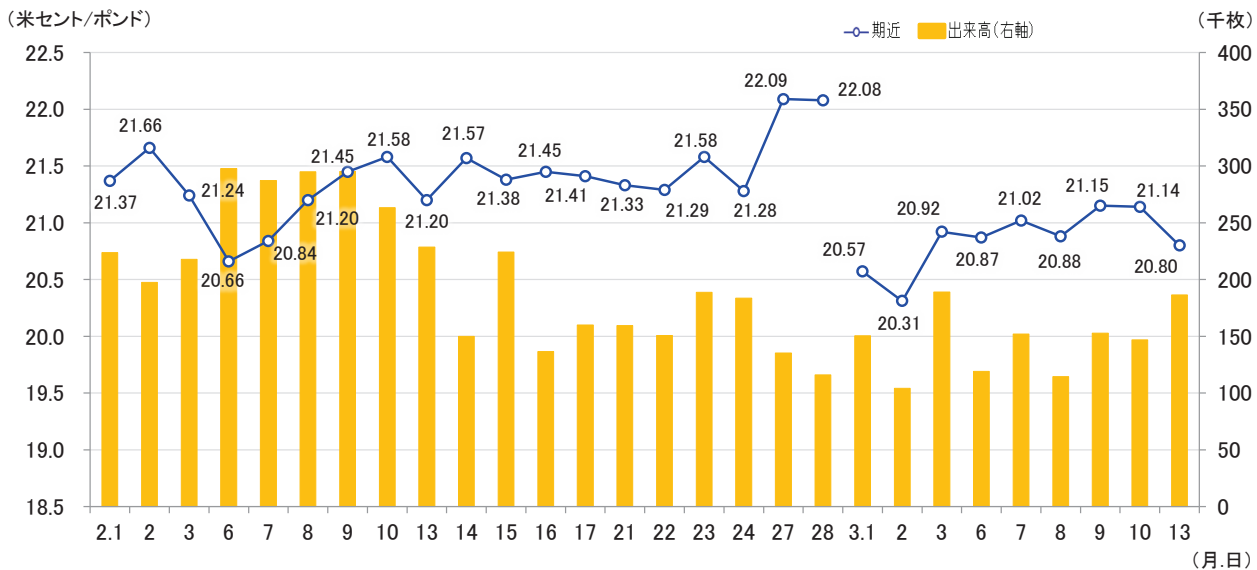
インドは、昨年11月上旬に砂糖輸出枠を600万トンと発表したのち、輸出枠の追加の可能性があるとしたものの、前年度ほどの増加は見込まれず774万トン（同37.9%減）と大幅な減少が予想される。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (2/1 ~ 3/13)

~3月限は22セント台の高値で終え、世界的な供給不足懸念により5月限は20セント台から開始~

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：2月は期近3月限、3月は5月限の値。

2023年2月のニューヨーク粗糖先物相場（3月^がり限）の推移を見ると、1日は、1ポンド当たり21.37セント（注¹）と高かった1月末日からは下落したものの、2日は、同21.66セントとやや値を戻した。3日は、原油安（注²）から同21.24セントと値を下げ、6日は、ドル高（注³）などが加わり、さらに同20.66セントまで下落して、21セント台を割り込んだ。8日は、原油高などから上昇に転じて、同21.20セントと、再び21セント台となった。10日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が1月後半のブラジル中南部地域のサトウキビ生産量が前年同期を上回ったと発表した一方で、EU最大の生産国であるフランスと、インドの両国で砂糖生産が減るとの懸念から、同21.58セントと続伸した。13日は、世界第2位の砂糖輸出国であるタイで、2月上旬時点の累計の収穫量が昨年度より10%増加し、糖度が過去最高を記録したとの報道などから、

同21.20セントと値を下げた。その一方、14日は、砂糖の現物需要の高まりから、同21.57セントと値を上げた。15日は、ドル高により同21.38セントまで値を下げるも、16日以降は、17日にインド政府が22/23年度の追加輸出割当を認めない方針を示唆したことや、20日にはインド製糖協会（ISMA）が22/23年度の砂糖生産量の増加を発表したことなどから、価格は横ばいで推移し、22日は、同21.29セントを付けた。23日は、リアル高と原油高により、同21.58セントと上昇した。24日は、ドル高に伴う利食いにより、同21.28セントと下落したが、国際砂糖機関（ISO）が22/23年度の砂糖生産量と余剰在庫量を下方修正したことから、世界的な供給不足への懸念が広がり、27日は、同22.09セントと高騰し、28日は、同22.08セントで3月限の納会を迎えた。

期近在5月限を迎えた3月1日は、引き続き世界

的な供給不足への懸念から、同20.57セントと高値を付けた。2日は、ドル高により、同20.31セントまで値を落とすも、3日は、原油高により、同20.92セントと上昇した。6日は、インドにおける22/23年度の砂糖生産量が目標とする3360万トンに達した場合、100万トン追加輸出枠を許可する可能性があることを同国政府が発表したことから、同20.87セントと下落した。7日以降は、インドでの減産やブラジルでの増産見通しなどから上下したものの、9日は、米国海洋大気庁がラニーニャ現象の終息を宣言し、今年後半にはエルニーニョ現象が約6割の確率で発生することを発表したことから、同21.15セントと上昇した。エルニーニョ現象が発生した場合、ブラジルでの大雨やインドでの干ばつ

など、砂糖生産の世界的な被害が懸念される。13日は、原油安により、同20.80セントと値を下げた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2023年3月時点予測)

ブラジル

2022/23年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：859万ha (前年度比1.0%減)
生産量：6億850万トン (同5.5%増)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：3977万トン (同5.7%増)
輸出量：2921万トン (同7.8%増)

2022/23年度の砂糖生産量はやや、輸出量はかなりの程度増加する見込み

2022/23年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、前年度の不作による苗不足や、大豆やトウモロコシなどほかの作物との競合から859万ヘクタール (前年度比1.0%減) とわずかに減少すると見込まれる (表2)。一方でサトウキビ生産量は、主産地である中南部地域が生育初期に平年より乾燥した気候となり、9月以降は降雨が続いて収穫作業が遅れたものの、その他の地域も含めサトウキビの生育に良好な条件が続いたことから6億850万トン (同5.5%増) とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、中南部地域の良好な気候に加え、雨季が始まる前に予想よりも多くのサトウキビが収穫されたことや、砂糖価格の上昇などを背景とした増産機運の高まりから、3977万トン (同5.7%増) とやや増加すると見込まれる。輸出量は、インドの輸出量が予想を下回ったことなどを背景に2921万トン (同7.8%増) とかなりの程度増加すると見込まれる。

ブラジル政府、燃料への連邦課税を再開

ブラジル経済省は2月28日、ガソリンとエタノールに課される連邦税の課税を3月1日から再開すると発表した。この度の措置は6月末までの暫定的

な措置とされ、ガソリンが1リットル当たり0.47リアル（約12.48円）^(注)、エタノールで同0.02リアル（約0.53円）が徴収される。この措置が7月以降も有効であるためには、議会で可決される必要があり、今後の動向によっては、連邦税免除前の税率が再び適用される可能性がある。その場合ガソリンは同0.69リアル（約18.32円）、エタノールは同0.24リアル（約6.37円）となる。なお、この度の動きに合わせ、政府と国営石油企業のペドロプラスが協力し、販売店へのガソリン価格を同0.13リアル（約3.45円）引き下げたことから、結果的には、ガソリンの上昇は同0.34リアル（約9.03円）になっている。

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）は2月

28日に発出した声明で、この度の課税再開に対し歓迎の意を表明し、政府は化石燃料への免税の廃止という財政面だけでなく、社会的にも環境的にも責任を負う選択することで、低炭素経済の強化に向けた政策を実現し、国として責任を持って関与することを約束したものであると述べた。また、本件はグリーン経済への今後の投資にも配慮したものであり、同国財相は本決定について、同国の環境経済資産、特にエタノールの重要性とバイオ燃料と化石燃料の税制差を明示したことを強調した。

^(注) 1リアル=26.56円（ブラジル中央銀行の2月末TTS相場1リアル=5.17米ドル、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2月末TTS相場1米ドル=137.33円を使用して算出）。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

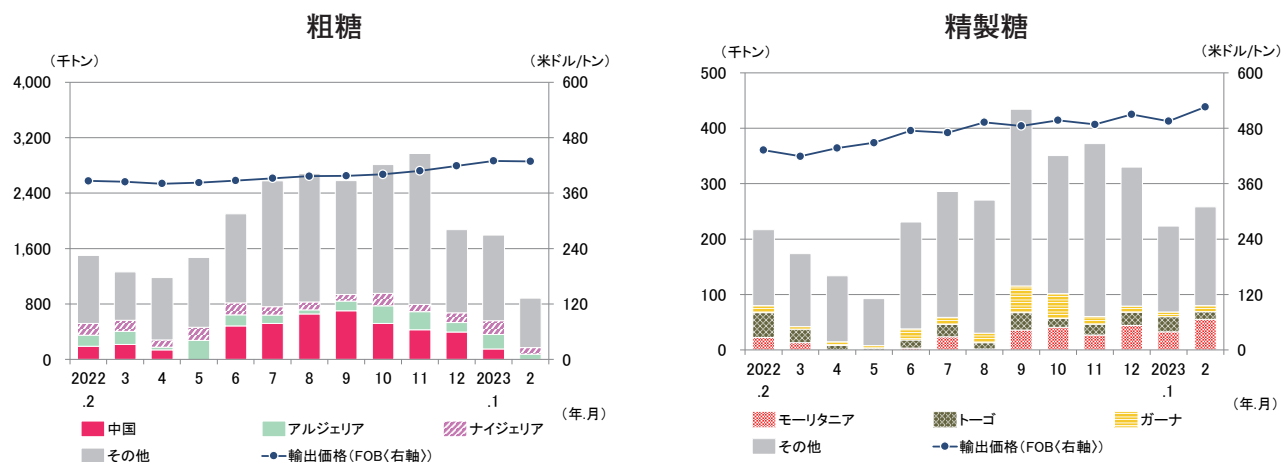
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (2月予測)	2022/23 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,679	8,589	8,589	▲1.0%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	609,000	608,500	5.5%	
砂糖	生産量	31,804	44,642	37,620	39,830	39,770	5.7%
	輸入量	6	6	4	8	5	32.6%
	消費量	10,842	10,916	10,718	10,557	10,557	▲1.5%
	輸出量	20,321	34,042	27,088	29,276	29,210	7.8%
	期末在庫量	3,778	3,468	3,286	3,298	3,295	0.3%
	期末在庫率	12.1	7.7	8.7	8.3	8.3	0.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



インド

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：557万ha（前年度比5.4%増）
生産量：4億6426万トン（同1.6%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：3643万トン（同5.5%減）
輸出量：774万トン（同37.9%減）

2022/23年度の砂糖生産量はやや減少し、 輸出量は大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、国内の高いサトウキビ需要を背景に価格上昇が加速するとの予測から、557万ヘクタール（前年度比5.4%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。サトウキビ生産量は、主産地であるウッタル・プラデーシュ州では増産が見込まれているものの、マハラシュトラ州やカルナータカ州では降水量の偏りや雨期後半に続いた曇天に伴う日照時間の短さなどから収穫量の減少が予測され、4億6426万トン（同1.6%減）とわずかに減少すると見込まれる。

一方で、砂糖生産量は、続く曇天によりサトウキビの出穂が早まったことによるCCS^(注)の低下や同国におけるエタノールの増産などから、3643万トン（同5.5%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、同国政府が昨年11月上旬に22/23年度の砂糖輸出枠を600万トンと発表したのち、輸出枠の追加の可能性があるとしたものの、21/22年度ほどの増加は見込まれず、774万トン（同37.9%減）と大幅な減少が予想される。なお、業界関係者は砂糖生産量が3400万トン以上になることが見込まれ、4月にも十分な在庫が確認できれば、政府が最大100万トンの追加輸出を承認する可能性もあると述べている。同国では、輸出よりも国内への安定供給とエタノールの生産を優先させており、22/23年度は約450万トンの砂糖をエタノールの製造に転用する予定である。

(注) 可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

ISMAとトヨタ・インド子会社がエタノール燃料を推進

トヨタの現地子会社であるトヨタ・キルロスカ・モーター（TKM）は2月17日、インド製糖協会（ISMA）と、インドにおける持続可能なバイオ燃料としてのエタノールの認知度向上と利用促進を目的とした覚書を交わしたことを発表した。本覚書はウッタル・プラデーシュ州で最初の製糖工場が設立されてから120年を記念するイベントで、同州首相や政府関係者の立ち会いの下で執り行われた。

TKMとISMAは、本覚書を通じてエタノールを国産のクリーンな代替燃料として普及させ、化石燃料への依存やCO₂排出量を低減させる政府目標に貢献することを目指すとしている。また同社役員は、地域全体で持続可能なモビリティソリューションとしてのエタノール導入を促進しようと常に努力する中で、カーボンニュートラルという目標を達成しながら、技術的に優れた解決法を世に提供する以上に、CO₂の排出削減手段そのものについての理解を深めることが重要であると述べている。

なお同国政府は、2025年までにガソリンへのエタノール混合率を20%にするという目標を掲げるなど、バイオ燃料としてのエタノールの利用を積極的に推進している。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

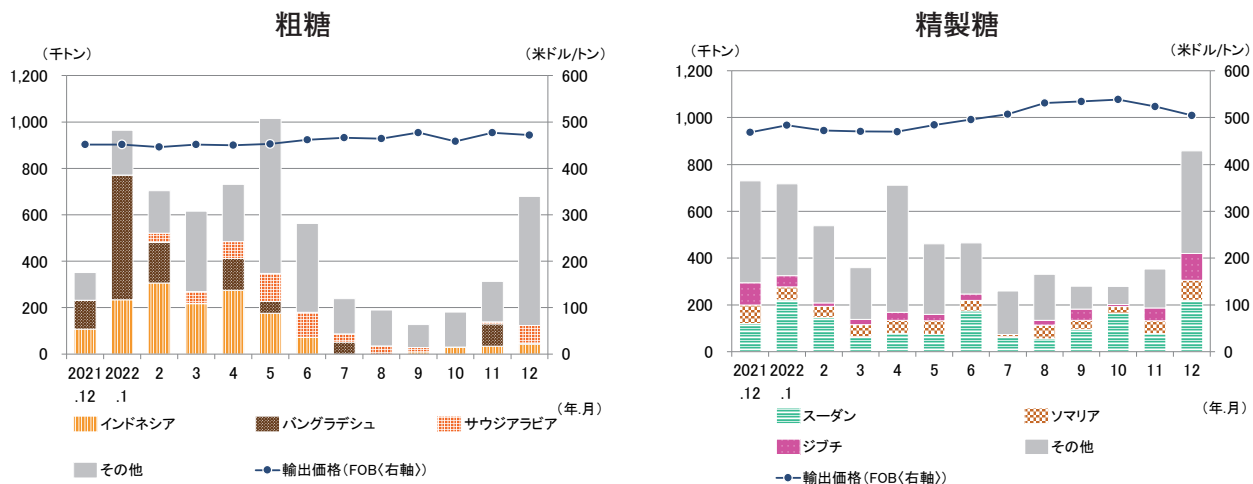
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (2月予測)	2022/23 (3月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,534	4,849	5,280	5,542	5,565	5.4%
サトウキビ生産量	371,430	410,545	471,675	455,634	464,264	▲1.6%
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,559	36,758	▲5.5%
	輸入量	1,686	1,037	428	648	53.2%
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	1.8%
	輸出量	8,254	8,538	12,468	7,688	▲37.9%
	期末在庫量	10,509	7,971	5,113	4,947	▲11.1%
	期末在庫率	29.5	21.4	12.2	13.2	12.1

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

中国

2022/23年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：113万ha(前年度比1.2%増)

生産量：6853万トン(同5.0%減)

【てん菜】

収穫面積：15万ha(同1.2%増)

生産量：799万トン(同13.0%増)

【砂糖(甘しゃ糖およびてん菜糖)】

生産量：1019万トン(同1.4%減)

輸入量：687万トン(同3.7%減)

2022/23年度の砂糖生産量はわずかに、輸入量はやや減少する見込み

2022/23年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、113万ヘクタール(前年度比1.2%増)とわずかに増加すると見込まれる(表4)。サトウ

キビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区で7月から11月の間で続いた干ばつの影響により、6853万トン(同5.0%減)と、7000万トンを割るものと予想される。なお、中国気象局によると、広西チワン族自治区では2月から再び干ばつに見舞われて

いるとした報告もあり、春植えの生育への影響が懸念される。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシ価格の高騰を背景に政府が昨年3月に穀物の増産を呼びかけたことを受け、他作物への転作が増加したものの、15万ヘクタール（同1.2%増）とわずかに増加が見込まれる。てん菜生産量は、順調な生育により799万トン（同13.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産予測から1019万トン（同1.4%減）とわずかに減少すると見込ま

れる。輸入量は、これまで国内生産の不足分を上回る量が輸入されてきたが、世界的な砂糖供給の逼迫懸念を理由とした価格の高騰から、輸入需要が減退しており、687万トン（同3.7%減）とやや減少すると見込まれる。しかし、ゼロコロナ政策の緩和から外食需要が急増し、家庭外での消費増加も見込まれているため、消費の回復が予想以上であれば、在庫を維持するために同国の輸入量は増加する可能性がある。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

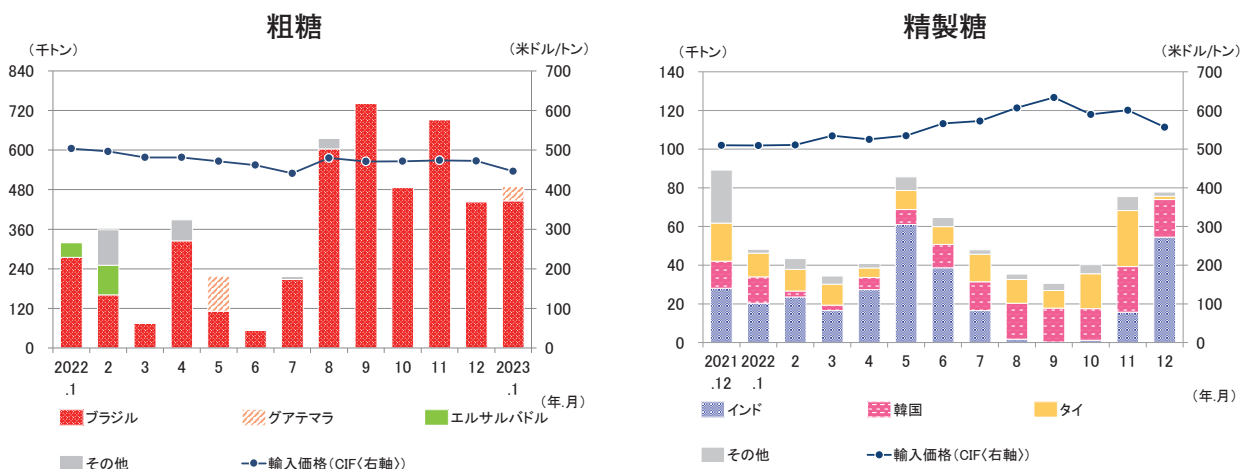
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (2月予測)	2022/23 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,119	1,131	1,133	1.2%	
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	71,846	68,527	▲ 5.0%	
てん菜収穫面積	213	231	144	148	146	1.2%	
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	8,112	7,990	13.0%	
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	10,694	10,190	▲ 1.4%
	輸入量	6,742	8,206	7,130	6,604	6,869	▲ 3.7%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,848	16,848	2.0%
	輸出量	192	132	169	173	173	2.4%
	期末在庫量	12,840	15,704	16,476	16,513	16,513	0.2%
	期末在庫率	77.8	93.1	98.7	97.0	97.0	1.7 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

E U

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比3.8%減）

生産量：9814万トン（同11.9%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1554万トン（同9.7%減）

輸出量：98万トン（同25.0%減）

2022/23年度の砂糖生産量は、かなりの程度減少し、輸出量は、依然として100万トン割れの見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響により、世界的な規模で深刻な食糧不足や食糧価格の高騰に対する懸念が広がる中、収益性が高く、価格が高騰しているトウモロコシなどの穀物への転作が進んだことなどから、140万ヘクタール（前年度比3.8%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、今夏の記録的な熱波や干ばつの影響のほか、肥料価格高騰による施肥の減少やEU域内でのネオニコチノイド系農薬の緊急的使用の禁止などが

ら収量が平年を下回るものと予測され、9814万トン（同11.9%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、フランスなどでエタノールに転用される砂糖が減少したものの、てん菜の減産のほか、干ばつなどの影響を受けたてん菜が12月中旬の急激な冷え込みと霜により含糖量が低下したことや、一部のEU加盟国でてん菜をすべて収穫することができなかったことなどから、1554万トン（同9.7%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸出量は、砂糖の減産などを背景に98万トン（同25.0%減）と前月予測と同様に100万トンを下回り、大幅に減少すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

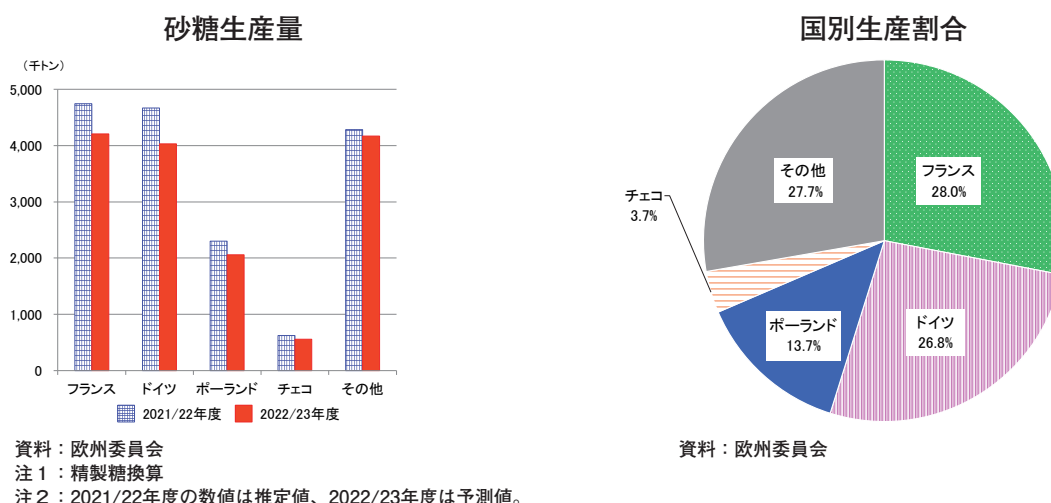
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (2月予測)	2022/23 (3月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,454	1,397	1,399	▲ 3.8%
てん菜生産量	110,105	98,520	111,395	98,346	98,136	▲ 11.9%
砂糖	生産量	16,971	15,123	17,207	15,501	▲ 9.7%
	輸入量	2,230	1,888	2,132	2,848	26.4%
	消費量	17,014	16,766	17,713	17,651	▲ 0.9%
	輸出量	1,436	1,262	1,312	984	▲ 25.0%
	期末在庫量	2,348	1,332	1,646	1,205	▲ 18.6%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.7	6.5	7.2

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2022/23年度) (2023年1月時点)



5. 日本の主要輸入先の動向 (2023年3月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しゅ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゅ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国が大勢を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度同）
生産量：3221万トン（前年度比6.9%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：420万トン（同2.3%増）
輸出量：321万トン（同8.9%減）

2022/23年度の輸出量は、かなりの程度減少する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、昨年3月と7月に主産地クイーンズランド州で洪水をもたらした降雨が収量には良い影響を与え、前年より良好な生育が予想されることから、3221万トン（前年度比6.9%増）とかなりの程度増加すると予想される。

砂糖生産量は、天候不順によるCCSの低下が見込まれ、また、ラニーニャ現象による降雨の影響で収穫作業が停滞し、多くの製糖工場で処理作業が前年に比べ遅滞した。このため、未処理のサトウキビが100万トン程度発生すると見込まれているものの、製糖工場での操業期間を1月下旬まで延長したことなどから、結果的には420万トン（同2.3%増）とわずかに増加すると見込まれている。また、輸出量は、砂糖生産量は、321万トン（同8.9%減）とかなりの程度の減少が見込まれる。

クイーンズランド州政府が資金援助を決定

現地報道によると、クイーンズランド（QLD）州政府は2月14日、サトウキビ栽培の生産性や収益性、持続可能性の向上のための取り組みとして、QLD州のサトウキビ生産者団体CANEGROWERSを主体に実施される「Smartcane Best Management Practice（BMP）」に対し、今後3年間にわたり、447万豪ドル（4億1973万円）^{（注）}の資金提供を決定したとされている。

この取り組みでは、システムなどのツールを活用して、化学肥料や農薬の使用量を低減して環境への負荷軽減を図るとともに、かんがい用水の最適化により水利用効率を高めることで、土壌の海洋流出の抑制が期待されている。豪州最大のサトウキビ産地である同州では、砂糖の安定生産が課題である一方

で、同州の沿岸部には世界最大のサンゴ礁である世界遺産のグレートバリアリーフが広がっており、これを保護する目的もあるとされている。

CANEGROWERSによると、過去数年間で、約500の生産者がサトウキビの栽培方法を変更してこの取り組みによる認定を受けており、同州で認定を受けた圃場^{ほじょう}の栽培面積は全体の4割に及ぶとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2月末TTS相場（1豪ドル=93.90円）。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (2月予測)	2022/23 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	364	354	342	342	342	▲ 0.0%	
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,123	32,200	32,207	6.9%	
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,108	4,230	4,201	2.3%
	輸入量	16	10	9	16	16	73.9%
	消費量	1,052	1,010	1,010	1,009	1,009	▲ 0.2%
	輸出量	3,449	3,376	3,521	3,237	3,207	▲ 8.9%
	期末在庫量	780	790	376	416	378	0.4%
	期末在庫率	17.3	18.0	8.3	9.8	9.0	0.7ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：171万ha（前年度比12.0%増）

生産量：9800万トン（同6.4%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1189万トン（同11.2%増）

輸出量：838万トン（同3.8%増）

2022/23年度の輸出量は前月予測からかなりの程度下方修正され、800万トン台の見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前年が豊作で収穫が良好であったことや、

競合するキャッサバに比べて収益が高い状況にあるといった理由から、171万ヘクタール（前年度比12.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、昨年は東北地域の低

地帯で洪水が発生したものの、洪水の被害がなかった他の地域で収量が増加し、前月予測の1億トン超えからかなりの程度修正されたものの、9800万トン（同6.4%増）とかなりの程度増加すると予想される。

砂糖生産量は、製糖業者が操業を終える時期が例年より若干早く、予想より低水準だったことから前

回予測から下方修正されたものの、1189万トン（同11.2%増）とかなり大きく増加し、21/22年度に引き続き1000万トン超えが見込まれる。輸出量は、生産量の下方修正を受け、838万トン（同3.8%増）と、同様に前回予測からかなりの程度下方修正されたものの、倍増した前年度からやや増加が見込まれる。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

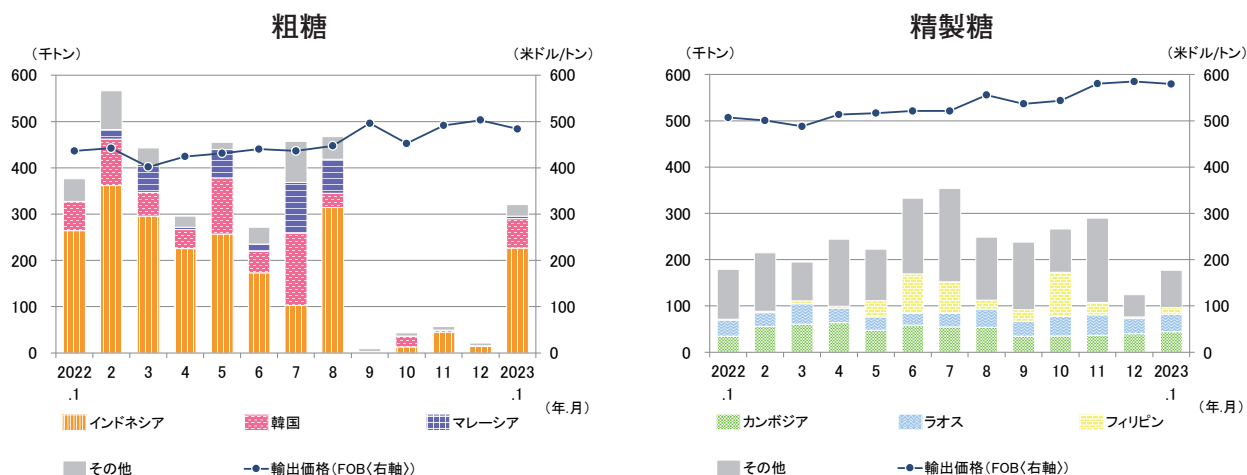
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (2月予測)	2022/23 (3月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,525	1,707	1,707	12.0%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	92,071	108,000	98,000	6.4%	
砂糖	生産量	8,801	7,971	10,688	12,804	11,885	11.2%
	輸入量	66	111	149	100	100	▲ 33.1%
	消費量	3,773	3,592	3,644	3,724	3,616	▲ 0.8%
	輸出量	8,461	3,981	8,069	9,080	8,375	3.8%
	期末在庫量	4,532	5,041	4,165	4,275	4,160	▲ 0.1%
	期末在庫率	37.0	66.6	35.6	33.4	34.7	0.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, March 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。